
大ドンデン返し

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大ドンデン返し

【Nコード】

N7170H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

僕は中学2年生。同学年に好きな子がいる。

僕は中学2年生。

1年の時から、好きな子がいる。

彼女とは小学校が違ったので、入学式の見かけ、一目惚れしてしまった。

しかし、残念な事にクラスは別になった。

それでも彼女の事が気になり、同じクラスの奴に用があるフリをして顔を見に行ったりした。

小学校の時から悪友には、僕の行動はわかりやすかったらしく、すぐにバレた。

随分冷やかされた。

絶対無理だからやめとけ、とも言われた。

そして、優柔不断な性格も手伝い、告白できないまま1年が過ぎた。

今年しかない。

そう思った。

3年になれば、それどころではなくなってしまう。

僕はそんな事はないと思うが、彼女は学年でトップを争う優秀な子なのだ。

僕とは違う。

来年になってしまつと遠い存在になりそうだ。

諦めかけた事もあった。

でも、何もしないで引き下がるのは、絶対に良くないとも思った。

ダメでもいいじゃん。

そう言ってくれた奴もいた。

そうだ。

断られたからって、死ぬわけじゃないし。

決断した。

ところが、だ。

彼女が避けている。

そう思えた。

僕が廊下を歩いているのを見つけると、サッとトイレに入ってしまったら、階段を駆け下りて逃げてしまう。

何だろう？

僕、彼女に何かした？ 覚えがない。

嫌われている？

そんな……。

さすがに心が折れかけた。

そんな日が続いた。

周りの悪友達も、僕の落ち込みのように言葉もない様子で、決してその事は口にしない。

重い足取りで下校する。

あ。

少し前を彼女が歩いている。

今度こそ！

僕は走った。

彼女が角を曲がった。

僕もそれに続いた。

そして用意していた言葉を言おうと口を開いた。

「前から好きでした！ 付き合ってください！」

角を曲がったところで逆にそう言われた。

「ええ！？」

そしてやっと言えたのが、

「こゝ、こちらこそ」

僕は何か何だかわからなくなるほど嬉しかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7170h/>

大ドンデン返し

2010年12月15日14時37分発行